

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

アカデミックで自由闊達な校風のもと、文武両道の実践を通じて、知・徳・体のバランスがとれ、豊かな人間性と心身のたくましさを備えた生徒、さらには、高い志とチャレンジ精神によって自らの進路を切り開き、社会貢献を行う努力を惜しまない生徒を育成する。

また、グローバル化が急速に進む中で、社会の課題に関心を持ち、国際社会のリーダーとしてふさわしい次のような能力や態度を育む。

- ・多角的な視点を持ち、ものごとを洞察する力、
- ・主体的に課題を解決しようとする態度、
- ・コミュニケーション能力、
- ・自己を確立するとともに、互いの違いを認め合い尊重しようとする態度

## 2 中期的目標

## 1 高い学力の育成

教員、生徒がともに真摯に学ぶ環境を追求し、高度な知識と教育スキルを兼ね備えた教員集団を確立するとともに、授業を通じて生徒が学問に対する興味・関心を高め、自ら主体的に学び、さらに高度な学びに向かってチャレンジしていく意欲を高める。

## (1) アカデミックな授業づくり

教員の専門的知識及び教育スキルの向上を図るため、授業改善を進める。また授業において、より効果的にICTを活用できるよう取り組む。

ア 授業に係る研修機会や授業相互参観等の充実を図り、教職員の授業スキルの一層の向上を図る。

イ 教員の専門的知識を研鑽する機会の充実を図る。

- ※ 学校教育自己診断（教職員向け）の項目「教科指導について、他の教員と日常的に話し合う機会がある。」（平成 28 年度新規項目）の肯定的評価が平成 30 年度実績で 80%以上。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）の項目「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」の肯定的評価が平成 30 年度実績で 85%以上（平成 26 年度実績 80.2%、27 年度実績 82.2%）。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業などでコンピュータやプロジェクタ、電子黒板を活用している。」の肯定的評価が平成 30 年度実績で 90%以上を維持（平成 26 年度実績 90.2%、27 年度実績 89.3%）。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業は興味深く満足できるものである。」の肯定的評価が平成 30 年度実績で 90%以上（平成 26 年度実績 83.1%、27 年度実績 84.2%）。

## (2) 主体的に学ぶ意欲・態度の育成

ア 生徒が自学自習を進めやすくなるような方策を検討し、合わせて適切なアドバイス等を行う。

イ 生徒の自己実現、進路目標設定のためのキャリア教育の充実を図る。

- ※ 生活アンケート（生徒向け）により把握する「平日の一日平均自主学習時間」が、「2 時間以上」と回答する生徒の割合を平成 30 年度実績で 60%以上（平成 26 年度実績 49.4%、27 年度実績 44.5%）、「3 時間以上」と回答する生徒の割合を同 35%以上（平成 26 年度実績 29.6%、27 年度実績 28.0%）。
- ※ 生活アンケート（生徒向け）により把握する「休日の一日平均自主学習時間」が、「4 時間以上」と回答する生徒の割合を平成 30 年度実績で 50%以上（平成 26 年度実績 39.6%、27 年度実績 38.6%）、「5 時間以上」と回答する生徒の割合を同 40%以上（平成 26 年度実績 31.8%、27 年度実績 31.1%）。
- ※ 「知的世界の冒険」、「職業ガイダンス」、「学部・学科ガイダンス」各々の生徒アンケートにおける肯定的評価を平成 30 年度実績で、各々 95%以上（平成 26 年度実績 88.2%、27 年度実績 93.8%）、95%以上（同 26 年度 93.6%、27 年度 97.4%）、90%以上（同 26 年度 90%、27 年度 90.9%）とする。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）の項目「学校は、進路についての情報を知らせてくれる」の肯定的評価を平成 30 年度で 90%以上（平成 26 年度実績 86.1%、27 年度実績 84.5%）。
- ※ 生徒の進路希望現役実現率（3 年次第 2 回進路希望調査における第一志望校の現役合格率）を平成 30 年度実績で 55%以上（平成 26 年度実績 45%、27 年度実績 33.2%）とする。

## 2 豊かな人間性と心身のたくましさの育成

本校のあらゆる学習活動、学校行事、部活動やその他の課外活動等を通じて、互いの違いを認め合いつつ協力し、切磋琢磨する中で、高い志を持って何事にもチャレンジしていく心身を育成する。

## (1) 学校行事・部活動・課外活動

ア 学校行事や部活動において、生徒がその力を十分に発揮できるよう組織的に支援していく。

イ 各種コンクール、コンテストや課外での行事等への積極的参加を働きかけていく。

- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）における「文化的行事には楽しく参加している。」「体育的行事には楽しく参加している。」の両項目における肯定的評価の平均値が、平成 30 年度実績で 90%以上（平成 26 年度実績 88.2%、27 年度実績 87.6%）。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「自分は部・同好会活動に積極的に取り組んでいる。」の肯定的評価が平成 30 年度実績で 90%以上（平成 26 年度実績 86.0%、27 年度実績 88.4%）。
- ※ 近畿レベル、全国レベルのコンクールやコンテスト、競技大会等への参加者数について平成 27 年度実績以上を維持（平成 27 年度実績：延べ 21 人 4 団体）。

## (2) 人権教育・教育相談の充実

ア 「人権が尊重された教育活動」を根底にすえて、すべての教育活動において、「自分を大切に、他者を大切に、その中で自分も大切にされる」集団づくりを進めていく。

イ 生徒や保護者に対するきめ細やかな教育相談ができるよう、情報の共有や体制づくりを一層進める。

- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）における項目「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。」の肯定的評価が平成 30 年度実績で 80%以上（平成 26 年度実績 74.0%、27 年度実績 72.9%）、「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる。」の肯定的評価が平成 30 年度実績で 60%以上（同 26 年度 50.6%、27 年度実績 52.6%）。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）における項目「人権の大切さについて学ぶ機会が多い。」の肯定的評価が平成 30 年度実績で 75%以上（平成 26 年度実績 67.2%、27 年度実績 69.7%）。
- ※ 学校教育自己診断（教職員向け）における項目「本校では、すべての教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導が行われている。」の肯定的評価が平成 30 年度実績で 80%以上（平成 26 年度実績 62.2%、27 年度実績 70.0%）。

## 3 次代のグローバル・リーダーの育成

国際的な視野を育むとともに、グローバルな社会課題を多角的に学び、積極的にその解決策を提言できる生徒を育成するため、海外や大学との連携、また S G H (Super Global High School) 等の取組みの充実を図る。

## (1) コミュニケーション力、議論する力、プレゼンテーション力の育成

ア 授業を中心とする様々な学習活動の中で、自分の考えをまとめ表現できる力、相手の主張を理解し自分の意見を交えてしっかりと議論ができる力を育成する。

- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）における項目「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がよくある。」の肯定的評価が平成 30 年度実績で 75%以上（平成 26 年度実績 72.2%、27 年度実績 69.9%）。

## (2) 海外の機関との連携、高大連携の充実

ア 高大連携を通じて、国際的な視点で大学の研究の最先端に触れ、国際的な社会課題への関心や、その課題解決に向けた意欲を高める。

イ 海外の大学や高校と連携、アジアからの留学生との交流や留学生の支援を得る機会を充実させる中で、海外の異なる文化や社会への理解を深め、国際的な視野を広げる。

- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）における項目「国際理解に関する学習をする機会が充分ある。」の肯定的評価が平成 30 年度実績で 70%以上（平成 26 年度実績 57.1%、27 年度実績 68.3%。ただし 26 年度実績については、他の項目と合わせた参考数値。）。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「本校で、海外からの高校生との交流会、学内留学、海外研修、留学生とのディスカッション等、英語を使って海外の人と交流したり学んだりする機会に参加したことがある。」（平成 28 年度新規項目）の平成 30 年度実績が 80%以上。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「国際的な社会課題に関心がある。」（平成 28 年度新規項目）の肯定的評価が平成 30 年度実績で 80%以上。

\* 以上のすべての活動を通じて、生徒の満足度を高める。

- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）における項目「北野高校に来てよかったと思う。」の肯定的評価が平成 30 年度実績で 90%以上（平成 27 年度実績 86.8%）。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>1 高い学力の育成 カッコ内の数字は満足度の肯定的評価 (H26 年度→H27 年度→H28 年度) (%)</b></p> <p>(教職員) 教科指導について教職員で日常的に話し合っている。(新規) (85.7)      評価の基準や方法について教職員で日常的に話し合っている。(64.5→65.0→67.4)      教科として到達度の低い生徒に対する学習指導体制ができていない。(46.6→42.5→46.9)      教科として学習意欲の高い生徒に対する学習指導を工夫し行っている。(80.0→67.5→63.3)</p> <p>(生徒) 教え方に様々な工夫をしている先生が多い。(80.2→82.2→75.9)      授業などでコンピュータやプロジェクト、電子黒板を活用している。(90.2→89.3→93.7)      授業は興味深く満足できるものである。(83.1→84.2→73.3)      学校は、進路についての情報を知らせてくれる。(86.1→84.5→83.2)</p> <p>●教職員の評価は、教科指導についての日常的な話し合いは一定なされているが、到達度の低い生徒に対する学習指導体制などの課題を改善するとともに、学習意欲の高い生徒に対する学習指導についても取り組まねばならない。教科として生徒の各層の学力をいかに伸ばしていくかについて組織的な取り組みが急務である。</p> <p>●生徒の評価は、授業での ICT の活用は高いが、授業の工夫や満足度という点については前年度を下回っている。研修や情報交換、他校への見学の機会等をさらに進める等、授業改善の姿勢が必要である。進路についての情報はある程度与えることができているが、情報を与えるタイミングや内容を改善し、生徒の自主的に学ぶ意欲につながるよう、さらなる工夫をすることで、生徒の進路実現の支援をさらに進めていく。</p> <p><b>2 豊かな人間性と心身のたくましさの育成</b></p> <p>(生徒) 文化的行事には楽しく参加している。(88.8→88→89.3) 体育的行事には楽しく参加している。(87.7→87.2→88.1)      遠足や修学旅行には楽しく参加している。(94.5→92.8→93.4)      自分は部・同好会活動に積極的に取り組んでいる。(86→88.4→86.1)      悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。(74→72.9→73.9)      担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる。(50.6→52.6→50.4)      人権の大切さについて学ぶ機会が多い。(67.2→69.7→52.7)</p> <p>(教職員) 本校では、すべての教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導が行われている。(62.2→70.0→67.4)</p> <p>●学校行事の満足度は高い一方、人権を学ぶ機会についての評価が低くなっている。これについては、今年度の人権行事日程が学校教育自己診断の実施日後であったことが影響していると分析しているが、日常的な人権教育の取り組みを充実させることが必要である。また、相談体制の更なる充実を図りつつ、「親身になって応じてくれる」の数値をさらに高められるよう生徒への関わりを深めていきたい。</p> <p><b>3 次代のグローバル・リーダーの育成</b></p> <p>(生徒) 授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がよくある。(72.2→69.9→71)      国際理解に関する学習をする機会が充分ある。(68.3→71.6)      本校で、海外からの高校生との交流会、学内留学、海外研修、留学生とのディスカッション等、英語を使って海外の人と交流したり学んだりする機会に参加したことがある。(新規)      (52.9)      国際的な社会課題に関心がある。(新規) (67.8)</p> <p>●SGH 関係の講演、学内留学、TOEFL 講座、国際交流、課題研究等の取り組みを行っているが、生徒の国際的な社会課題への関心を高めるとともに、生徒の参加意欲をさらに高められるよう充実を図っていく。</p>	<p>【第1回：平成 28 年 6 月 11 日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「高い学力の育成」についての取り組みについては申し分ない。一方、「豊かな人間性の育成」「次代のグローバルリーダーとしての資質の育成」についてはもっと生徒たちの視野を広げるような取り組みを行ってよいのではないか。世の中の問題（18 歳の選挙権問題、エネルギー問題等）に対して生徒自身がどう見るか、どう解決してゆくかという「目」を育てることが肝要。</li> <li>高大連携等の様々なプログラムへの参加について、できるだけ多くの生徒に機会を与えられるとよい。また、消極的な生徒の背中をどう押すか、ということも大切。</li> <li>社会に目を向けるきっかけとして、視野を広げる取り組みとして、同窓会主催の「六稜トークリレー」などの行事を有効に使っていただきたい。</li> <li>職業ガイダンスの講師陣をさらに職種を広げてみてはどうか。一般企業や起業家からお話を聴くのも良いのではないかな。</li> </ul> <p>【第2回：平成 28 年 10 月 1 日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SGH の評価に関して          北野高校が SGH の取り組みをしっかりとやっているのは知っている。事業として結果は出さなければいけないと思うが、評価結果をそれほど気にしなくてもよいのでは。          大学の評価委員をすることがあるが、評価のポイントをまとめ、明確にアピールするほうが良い。</li> <li>授業アンケートに関して          学年別の結果を昨年度の結果と比較したときに、今年度の 2 年生の数値が低いというよりむしろ 1 年の数値が高いと読める。もう少し細かく分析してみてもどうか。</li> </ul> <p>【第3回：平成 29 年 1 月 28 日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業について          授業を実際に見て、多くの生徒が前向きに授業に参加していた。授業への意欲が高く、特に主体的な活動を行う授業においては活発な学習活動が見られた。こうした形態の授業は、アンケートに見られる授業満足度への対策となり得るように感じた。          教員の授業に対する思いが生徒には伝わっていないように思われる。その辺りを伝えることができればもう少し生徒の意識にも変化が現れるのではないかな。</li> <li>その他の提言          課題研究について、どの作品も高い完成度ではあるが、突出した作品を見ることができなかった。生徒の興味関心に火を付け、生徒自身がどんどんと学びを深めていくような指導ができればいいと思った。          高校時代を常に受け身で過ごしていた生徒は大学に入ってから伸びない。生徒が互いに切磋琢磨し主体的に能力を発現するような授業を作っていければいいのではないかな。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 高い学力の育成	<p>(1) アカデミックな授業づくり</p> <p>ア 教職員の授業スキルの向上</p> <p>イ 研鑽機会の充実</p> <p>(2) 主体的に学ぶ意欲・態度の育成</p> <p>ア 自学自習の推進</p> <p>イ キャリア教育の充実</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内での授業公開週間を例年通り2回実施</li> <li>公開研究授業の実施</li> <li>他校の初任者等教員との授業力向上研修の実施</li> <li>校内の教員相互の授業見学を実施。</li> </ul> <p>授業に係る教員研修の開催</p> <p>(1) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他校や校外における授業研修等への参加者を増やす。</li> <li>研修等への参加者との間の、研修内容等の共有化を図る仕組みをつくる。</li> <li>教員の専門的知識を研鑽する機会の在り方について検討する。</li> </ul> <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学習の参考となるための「北野版シラバス」を作成、配付する。</li> <li>自学自習の推進方策についての検討を深める。</li> </ul> <p>(2) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「知的世界の冒険」「職業ガイダンス」「学部・学科ガイダンス」の実施</li> <li>進路目標の早期設定に向けた取組みの充実</li> </ul>	<p>(1) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相互授業見学を実施した教員の割合 80%以上 (27年度実績 66.1%)。</li> <li>学校教育自己診断(教職員向け)(以下「教職員自己診断」)「教科指導について、他の教員と日常的に話し合う機会がある。」(平成28年度新規項目)の肯定的評価が平成28年度実績で60%以上。</li> <li>学校教育自己診断(生徒向け)(以下「生徒自己診断」)の項目「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」の肯定的評価が平成28年度実績で85%以上(27年度実績82.2%)。</li> <li>生徒自己診断「授業などでコンピュータやプロジェクト、電子黒板を活用している。」の肯定的評価が平成28年度実績で90%以上(27年度実績89.3%)。</li> <li>生徒自己診断「授業は興味深く満足できるものである。」の肯定的評価が平成28年度実績で85%以上(27年度実績84.2%)。</li> </ul> <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活アンケートの「平日の一日平均自主学習時間」が、「2時間以上」を平成28年度実績で50%以上(27年度実績44.5%)、「3時間以上」を同30%以上(27年度実績28.0%)。</li> <li>生活アンケートの「休日の一日平均自主学習時間」が、「4時間以上」を平成28年度実績で40%以上(27年度実績38.6%)、「5時間以上」を同33%以上(27年度実績31.1%)。</li> </ul> <p>(2) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「知的世界の冒険」、「職業ガイダンス」、「学部・学科ガイダンス」各々の肯定的評価を平成28年度実績で、各々95%以上(27年度実績93.8%)、95%以上(同97.4%)、90%以上(同90.9%)。</li> <li>生徒自己診断「学校は、進路についての情報を知らせてくれる」の肯定的評価を平成28年度で88%以上(平成27年度実績84.5%)。</li> <li>生徒の進路希望現役実現率を平成28年度実績で50%以上(平成27年度実績33.2%)とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>85.5% (◎)</li> <li>85.7% (◎)</li> <li>75.9%。目標に届かなかった。さらに授業力を向上させるべく取り組む(△)。</li> <li>93.7%。十分に活用できている。(◎)</li> <li>73.3%。特に3年生の評価が低くなった。重点的に取り組む。(△)</li> <li>45.3%、22.9%。「2時間以上」は微増、「3時間以上」は減少。生活アンケートの実施時期を従前の9月から7月にしたため、3年生の数値が下がったことが主な原因。(△)</li> <li>38.7%、26.9%。同上(△)</li> <li>各々96.9%、98.6%、96.0% (◎)</li> <li>83.2% (○)</li> <li>38.8%</li> </ul>
2 豊かな人間性と心身のたくましさの育成	<p>(1) 学校行事・部活動・課外活動</p> <p>ア 学校行事や部活動</p> <p>イ 各種コンクール等への参加</p> <p>(2) 人権教育・教育相談の充実</p> <p>ア 人権基礎教育推進</p> <p>イ 教育相談の充実</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度実施した学校行事等の総括を踏まえ、さらに充実を図るよう改善を図る。</li> </ul> <p>(1) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が課外への活動に積極的にチャレンジしていくよう、情報提供等を含め、働きかけを活発にする。</li> </ul> <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本校における人権教育の体系化を図る。</li> <li>教職員の人権意識をさらに高めるための研修機会等について検討する。</li> </ul> <p>(2) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の状況についての共有化を一層図る。</li> <li>SCとの連携やケース会議の充実、関係機関との連携を一層図っていく。</li> <li>教育相談に係る校内体制づくりを推進する。</li> </ul>	<p>(1) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自己診断「文化的行事には楽しく参加している。」「体育的行事には楽しく参加している。」の両項目における肯定的評価の平均値が、平成28年度実績で90%以上(27年度実績87.6%)。</li> <li>生徒自己診断「自分は部・同好会活動に積極的に取り組んでいる。」の肯定的評価が平成28年度実績で90%以上(平成27年度実績88.4%)。</li> <li>近畿レベル、全国レベルのコンクールやコンテスト、競技大会等への参加者数が平成27年度実績以上を維持(平成27年度実績：延べ21人4団体)。</li> </ul> <p>(2) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自己診断(生徒向け)「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。」の肯定的評価が平成28年度実績で75%以上(27年度実績72.9%)、「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる。」の肯定的評価が平成28年度実績で55%以上(同52.6%)。</li> <li>生徒自己診断「人権の大切さについて学ぶ機会が多い。」の肯定的評価が平成28年度実績で72%以上(27年度実績69.7%)。</li> <li>教職員自己診断「本校では、すべての教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導が行われている。」の肯定的評価が平成28年度実績で73%以上(27年度実績70.0%)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>88.7% (○)</li> <li>86.1% (○)</li> <li>22人4団体 (○)。</li> <li>各々73.9%、50.4% (○)</li> <li>52.7% (△)。人権講演会の実施時期が遅くなったことも原因の一つと考えられる。</li> <li>67.4% (△)</li> </ul>
3 次代のグローバルリーダーの育成	<p>(1) コミュニケーション力、議論する力、プレゼンテーション力の育成</p> <p>ア 議論できる力等の育成</p> <p>(2) 海外の機関や大学との連携</p> <p>ア 高大連携</p> <p>イ 海外との連携</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「課題研究」「学内留学」「国際情報」「海外研修」等を中心に、ディベートやプレゼンテーション等の学習と実践を行う。また、あらゆる学習活動の中で、自分の考えをまとめ、発表する機会を充実させる。</li> </ul> <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際的な社会課題への関心と課題解決に向けた意欲を高めるため、高大連携をさらに進める。</li> <li>大学の留学生との交流機会の拡大や、課題研究における生徒支援をさらに進める。</li> </ul> <p>(2) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外の大学や高校との連携をさらに進め、生徒の国際経験を深めるとともに、課題について研究し、成果を発表する。</li> </ul>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自己診断「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がよくある。」の肯定的評価が平成28年度実績で73%以上(27年度実績69.9%)。</li> </ul> <p>(2) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自己診断「国際理解に関する学習をする機会が充分ある。」の肯定的評価が平成28年度実績で70%以上(27年度実績68.3%)。</li> <li>生徒自己診断「本校で、海外からの高校生との交流会、学内留学、海外研修、留学生とのディスカッション等、英語を使って海外の人と交流したり学んだりする機会に参加したことがある。」(平成28年度新規項目)の肯定的評価が平成28年度実績で60%以上。</li> <li>生徒自己診断「国際的な社会課題に関心がある。」(平成28年度新規項目)の肯定的評価が平成28年度実績で60%以上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>71.0% (○)</li> <li>71.6% (○)</li> <li>52.9% (△)</li> <li>67.8% (○)</li> </ul>
生徒満足度		これらすべてを通じて、生徒の満足度を高める。	生徒自己診断「北野高校に来てよかったと思う。」の肯定的評価が平成28年度実績で88%以上。	86.1% (○)